

平成17年7月17日の総会で下記の方々が役員に選任されました。

理事	備考	理事・里親	備考
石井 雅憲		永井 真己子	
石井 由里	副理事長	戴 利明	
大隈 博志		瀧口 治	理事長
加藤 紘	(18年度)	名畑 恒	
大島 脩		西村 晃	
広中 平祐		平野 充好	
福岡 善平		森山 信治	
		柳家 武夫	
小計 7名		小計 8名	理事合計15名

監事	備考
久保園 浩	

**【年会費の納入,有難うございました】** (五十音順,敬称略:2006年5月21日~2006年10月25日)

浅野 敏, 安部 一成, 荒瀬 剛一, 石井 雅憲, 石井 由理, 市川 学, 市川 祐子, 内田 浩一郎, 内山 雅博, 永 梅, 江河 知寿, 袁 麗暉, 大石 亜矢子, 大隈 博志, 大村 伸子, 小田 知子, 開作 真人, 片岡 和子, 加藤 紘, 河村 節子, 河本 幸枝, 木原 寛, 木部 和昭, 草場 英昭, 久保園 浩, 桑元 和伸, 小島 良和, 児玉 洋子, 財間 芽, 佐伯 謙吾, 嶋田 春美, 清水 力, 末永 汎本, 戴 利明, 高田 清子, 高畑 鷹恵, 高原 祐二, 田島 幸男, 瀧口 治, 瀧本 英正, 田代 寿美子, 近本 慶子, 塚原 正人 (下期), 常岡 英弘 (下期), 徳重 忠治, 中里 文香, 中村 勝, 長橋 和男, 永井 真己子, 名畑 恒, 西村 晃, 西村 節子, 羽岡 美智江, 原口 智美, 平田 京子, 平野 充好, 平松 洋之介, 福田 晴彦, 福田 佑紀, 藤田 明伸, 分木 久子, 曲田 靖, 松尾 仁恵, 松浦 キクヨ, 松浦 澄子, 丸本 卓哉 (下期), 溝辺 法雄, 宮川 英之, 三宅 洋一, 村中 隆美, 元永 真由美, 守屋 爽子, 森山 信治, 安田 奈穂, 安原 勝實, 柳屋 武夫, 山野 勝也, 尹 春志, 吉田 常子, 渡司 紗裕美。

**【ご寄付,有難うございました】** (五十音順,敬称略:2006年4月1日~2006年10月20日)

内田 浩一郎 (6,829円), 名畑 あおい (中国の子供たちへの土産品), 中国洋河鎮視察団一行 (15,105円)。

\*\*\*\*\*  
 編集後記【事務局から】  
 ◆去る9月に中国・青島広域市膠州市洋河鎮の第27  
 中等学校を訪問しました。総勢15人のうち、学生が  
 8人も参加してくれました。野村、土井の両君、女  
 性の宇都宮、中里、広末、安田、山本、渡司の6  
 名、それぞれ何を感じたか、今号では学生諸君の寄  
 稿を中心に中国での見聞感想を掲載しました。  
 ◆石井副理事長、平野理事夫妻、西村、森山理事  
 と小山、山野の社会人7名を加えての一行でした  
 が、女子学生の行動力に驚嘆しながらの1週間です  
 ◆若干名の新規入会会員を迎えることが出来ました  
 し、学生諸君の力を借りながら、改めて子供たちの  
 期待の眼差しに応えられる活動にしていきたいもの  
 と考えています。一層のご支援をお願いします。  
 \*\*\*\*\*

**【アジアの子・第13号】** (2006年10月15日)

編集: 山野 勝也, 袁 麗暉  
 写真: 宇都宮華奈, 中里文香, 西村晃, 野村雄介,  
 平野充好, 広末繁吹, 安田奈穂, 山本恵,  
 協力: 石井由理, 市川祐子, 小山松信, 近本慶子,  
 土井恵介, 森山信治, 渡司沙裕美、

<連絡先>  
 アジアの子教育基金山口大学事務局  
 〒753-0089 山口市亀山町3-1鳳陽館内  
 tel/fax: 083-924-4361(呼)  
 e-mail: asianoko@hotmail.com  
 URL: http://asianoko1.econo.yamaguchi-u.ac.jp

**【ホームページのURLを一部分変更しました】**

URL ; <http://asianoko1.econo.yamaguchi-u.ac.jp/>



## 中国膠州市学校訪問ツアー報告

### 膠州市洋河鎮の中学校を訪問して

副理事長 (教育学部 教授) 石井由理

2006年9月2日から9日までの一週間、「アジアの子教育基金・山口大学」会員と山口大学学生の総勢15名で膠州市を訪問しました。目的は、本基金の奨学金を受けている子どもたちと会うことです。宿泊地である青島市からバスで40分ほど走った農村が、目指す中学校のあるところですが、このわずか40分の間に変化する風景に、現在の中国が抱えている地域格差の問題をはっきりと見て取ることができました。高層ビルや高級マンションが立ち並ぶ青島に対し、洋河鎮は赤土のままの道路に、二間と土間の台所をもつ小さな四角い家が並んでおり、双方の間にはまるで30年以上の時間の差があるかのように思えました。

農村地帯を暫らく走って着いたレンガづくりの学校では、集会室で生徒、保護者、教師、行政のそれぞれの代表者達と懇談をしました。集会室の土の床を見たときには、教室もおそらく豊かな教具や教材に恵まれてはいないだろうということが推測できました。しかし、そのような環境にも負けず、迎えてくれた子どもたちは学ぶ意欲にあふれ、医者、警察官、教師など、将来の夢を語ってくれました。

実は、現在の中国の農村の子どもたちにとって、教育は貧困から抜け出すための望みの綱になっています。本来、農村で生まれた子どもはそこに戸籍を持ち、勝手に都市に移住して戸籍を移すことができません。戸籍がなければ正規の教育も受けられませんし、まともな職業に就くこともできません。このような子どもたちの親の多くは、自分の子どもがよい成績をとり、都市にある大学に進学する資格を得て、いずれ都市で就職ができるようになることを望んでいるのです。実際訪問の際にも、洋河鎮と青島では収入が3倍以上違うという話も聞きました。このような事情を知るにつけ、なるほど、私たちが会った子どもたちの中には、親の後を継いで農業を営むと語った子どもは一人もいなかったなあと、新ためて、教育を受けることに対する彼らの意気込みを認識したしだいです。

願わくは、私たちのささやかな基金が、彼らが人生を切り開くために役立ちますように。

~目次~

中国膠州市学校訪問ツアー報告 1 PAGE  
 膠州市董城村学校ツアーで感じたこと 2 PAGE  
 3 PAGE  
 役員一覧表  
 年会費の納入  
 編集後記 4 PAGE



訪問団、青島市政府幹部、膠州市関係者、学校関係者の全員記念写真

## アジアの子青島レポート

山口大学経済学部4年 野村雄介

最初に今回この素晴らしい体験をさせてくれた皆さんやゼミの後輩達にとっても感謝したいと思います。大学2年生から2年間アジアや中国について勉強したこともあり、以前から中国に足を踏み入れたい気持ちがあった私はアジアの子の活動に参加する事はとてもよい機会だと思い参加させていただきました。青島の気候は9月上旬にしては涼しく夜は少し肌寒いくらいでした。青島観光は昔ドイツに占領されていたこともあり町並みが少しヨーロッパ風でとてもカッコイイと感じました。又歴史的な建物と近代的な町並みが融合したとてもいい町だと思いました。本格的な中国海鮮料理と青島ビールを堪能できた事も良い思い出です。さて今回の旅のメインである膠州にある中学校へ訪れた時はやはり沿岸部と農村部の格差を目の当たりにしました。高層ビルや高級別荘地が立ち並び日本の都市部と遜色しないぐらいの成長を続けている青島とまだまだ道路や都市衛生が行き届いていない中学校の都市の格差は歴然でした。実際に現地へ行き、勉強していた中国の大きな問題の一部でも肌で感じる事が出来たのは貴重でした。そんな中でもアジアの子基金で夢に向かって頑張っている子ども達と少しでも触れ合うことが出来た事は本当に貴重な体験であり自分に力を与えてくれました。本当に今回の旅は有意義で素晴らしいものでした。大学生時代の貴重な思い出の1つになりました。

## 「アジアの子教育基金」視察旅行に参加して

教育学部4年 山本 恵

今回の旅行で一番印象に残ったことは、膠州市の中学校を訪問したことです。私たちの滞在しているホテルからバスで1時間半程のところでしたが、道は舗装されていないところもあり、また学校の設備も整っていないとはいえない現状で、都市と田舎の環境や設備の差に大変驚きを感じました。そのような環境の中でも、夢を持って勉学に励んでいる子どもたちと対面し、言葉では表しきれない思いが込み上げてきました。

その後、奨学金を受けている子どもの家庭を訪問させていただきました。家に入ると子どものお父さんが部屋の奥から、鞆を取り出して私たちにみせてくださいました。その中には、子どもが学校でもらった賞状がたくさん入っていました。自慢の子どもだと笑顔で話してくださいましたのがとても印象的でした。現在、親子間で起こる残酷な事件が度々報道される日本で暮らす私にとって、この光景は大変心温まるものでした。

今回の旅行で学んだこと、感じたことをもっと多くの人に伝えていくことが私にできる支援の1つになると思います。この現状をもっと多くの人に知ってもらい、私たちひとりひとりができる支援を考えていきたいです。

(写真：訪問した膠州市第27中学校の正門)



## 「アジアの子」

経済学部 国際経済学科3年 渡司 紗裕美

去年のベトナム旅行に引き続き、中国旅行にも参加した。とても勉強になり、何もかもが貴重な体験だった。やはり実際に見ると聞くとは、全然違う。格差。私が今回の旅行で感じたのは、格差だ。青島から車で1時間半の膠州市。観光地のチンタオとは景色が全く違った。田畑が続くので収入源が農業だということは、すぐ分かった。青島のキレイな街並みとは全く違いショックだった。しかし、私たちが訪問した学校の子供たちは、先生や医者などの夢を抱き、勉強に励んでいた。親御さんも、「アジアの子基金」のおかげで、教育機会が増え、経済的に助かるだけでなく、努力することで精神的にも成長できると言っていた。お互いに最初緊張してしまっ

て、あまり話せなかったのが残念だ。でも最後に、子供たちに、「Do you enjoy school?」と尋ねたら「Yes!」って言って、隣の賑やかな学校に戻っていったのが印象的だった。

アジアの子は夢を叶えるきっかけの橋渡しをしていると訪問を通して改めて思った。私は常々、今の時代、日本に生まれたからこそ自分にできること、ということ考える。この旅行は現状を見ることで私にとって視野を広げ、問いかけに一步近づく旅だった。(写真：膠州市李軍梅副市长と一緒に)

以前からゼミを通じて「アジアの子教育基金」の活動を知っていましたが、今年が初参加となりました。出発前に基金が創立された経緯を聞き、実際の西郭学校の訪問で基金の使用状況と生徒の進学状況などを中心に、懇談会では教師、保護者、生徒からの報告を受けました。報告では教育を受けるのが困難な家庭の生徒に対しての奨学金と優秀学生に対する奨学金の2種類を設けていること、近年、日本と同じように小・中学校での教育が義務付けられ教育に対する政府の関心も強まっていることを知りました。また生徒への質疑応答の時間には中学生で17歳という子もいて、彼らの年齢が日本の学生よりも高いことから教育を受けるのが困難であることがうかがえました。生徒1人1人は生き生きと将来の夢を語り、勉強に対して前向きな姿勢が見受けられ、真面目で素直な学生だという印象を持ちました。日本では、当たり前となっている教育が受け入れられない事実を自分の目で確認することで、改めて将来のある子供たちへの教育の大切さに気づき、わずかでもその手助けができることに嬉しく思いました。今後もこの活動の輪が広がり、アジアの子供たちの教育の質が高まっていけるよう、私個人としても活動に携わっていきたいです。



## 中国を訪問して

山口大学 経済学部 国際経済学科 3年 中里 文香

私は今回初めてこの活動に参加したのですが、学校を訪問し、「アジアの子」の支援金で多くの子供達が学校に通いやすくなっている事を知りました。英語が好きだと言った女の子と少しお話をしたのですが、私達の事を警戒もせず、笑っていろんな事を話してくれました。子供達みんなの無邪気な笑顔が、すごく可愛くて素直だなと感じました。この笑顔をずっと大事にできたらいいと思いました。

生徒の家を訪問した時、道路が整備されていない事、玄関を入るとすぐに台所という事に驚きました。景観も、青島とはあまりに違いすぎていました。沿岸部と農村部の差が激しいと聞いていましたが、ここまで酷いとは思っていませんでした。

私は、今回参加して、中国の格差の実態・農村部の子供達の現状を知ることが出来て、とても良い経験だったと思います。参加して本当に良かったです。日本政府も中国に対して支援を行っていますが、実際に農村部の人々にその支援が届いているとは思えませんでした。「アジアの子」では、小さい州・市ではありますが、直に支援を行えるので、日中の友好関係も築きやすいし、実際に農村部の人たちに支援が届きやすいのではないのでしょうか。

私はこの訪問を通じて、「アジアの子」の活動はとても意義あるものだと感じたので、このような活動がさらに広まり、興味を持つ人が増え、活動が活発化すればいいと思います。(写真：学校関係者との懇談会)

## 中国視察旅行

山口大学教育学部・国際理解教育コース3年 宇都宮 華奈

今回、初めて中国を訪れましたが、経済格差を自分の目ではっきりと見る事ができたという点で、とても貴重な旅だったと思います。「アジアの子教育基金」が支援している子供たちの家庭や学校を訪問し、生活の様子の一部を見ましたが、青島などの別の地区と比べると同じ国と思えませんでした。しかし、子供たちをはじめとし、そこで暮している人々の目はキラキラ輝いていて、とても充実した毎日を送っているように見えました。幸せな生活とは一体何なのか、これから考えていきたいです。また、これまでは中国の上辺しか分かっていなかったのが、今回の旅行をきっかけとして、もっと実態にせまった形で中国について学んでいきたいです。そして、機会があれば再び訪れたいと思います。最後になりましたが、たくさんの方にお世話になり、貴重な体験もさせていただき、本当にありがとうございました。

(写真：平野先生、徐仲偉処長、ガイドの劉さん談笑中)

